



やまもり☆ホッとスクランブル
大和市民活動センターだより
『やまとっこ☆みつけた』



第472回 2/4 (火) 「スタジオ ソララド」

出演 代表 坂本健一さん

坂本さんは20年以上映像ディレクターとして、企業のVP（ビデオパッケージ）やニュース番組の制作、全国の地方創生事例の取材に携わってきました。昨年2024年1月に、大和市を拠点とするプロダクションを設立し、活動拠点をベテルギウス館内 起業家支援スペース Rigel に置いています。主な活動は映像制作で、全国の地方創生事例のビデオ制作やイベントのライブ配信などを手がけています。昨年、神奈川県の起業家支援プログラム「HATSU」の採択を受け、県の支援で地域コミュニティ活性化の新しい事業モデルを構想して「自治会DX」の支援にも取り組んでいます。ベテルギウスまつりでは、バーチャルスタジオやVTuber体験コーナーを出展しました。今後も多世代交流につながるカードゲーム大会などの活動を増やしていく予定です。

映像制作やライブ配信（オンラインミーティングなど）に興味のある方、教育面での「魅力化」「特色化」「地域社会連携」「探求学習」といったキーワードにご興味がある教育関係の方からのご連絡をお待ちしています。

☆3月の出演 第474回 3/4 スサークル ありんこ 第475回 3/18 地域を明るくするリハビリテーション専門職の会 大和

FM やまと 77.7MHz 第1.3.5(火) 生放送 9:00~9:30 同日再放送 15:00~15:30

TSUBASA's トーク 第40回 走るときに考えていること

京都マラソンを完走したが、どうもマラソンとエッセイは相性が悪いと思う。だって、よくある話じゃないか。腰を痛めたり入院生活をしていた人が、ちょっと孤独なりハピリ生活に耐えて、最後にフルマラソンを完走し「信じて続けていれば、いつか報われると心から思えた」なんて、いかにも王道。

よく人生はマラソンに例えられる。一歩ずつの積み重ねがゴールにつながり、何事も長い目でみて取り組むべき、ということらしい。「男ってだめねえ」と走りながら考えていました。

京都マラソンは、嵐山付近の陸上競技場がスタート地点で、そこから一条通、仁和寺、加茂川と進み、最後に鴨川沿いを祇園方面に南下してフィニッシュになる。そのおおよその中にあたる25キロ地点では、北山通りという一直線の街道を大勢で往復する。僕も大勢の中を走り、いろいろなランナーを見たのだが、特に驚いたのは走りながらナンバーをする男性ランナーだった。男性は僕の5メートル先で白い帽子、淡いピンクのTシャツを着て走る女性に話しかけている。「今日の夕方から、僕のサークルの人で飲み会をやるのでよかつたらどうですか？ 女の子も何人かいいるんで」。女の子が何人かいたら何なのか、と思いつつ女性をみると生返事で「はい、そうなんですねえ」と答えていた。記録を目指すなら振り切ってしまえばいいのに。ただ25キロ地点でさえ口説き続けられる男性の執着心と体力も大した



ものだ。使い道を工夫すれば素敵な心身だと思う。走っても2人との差が縮まらず、非常に悔しかった。

沿道の応援にもさまざまな人がいる。「足が痛いのは気のせい」と書かれたボードを持っている人、サックスを演奏するおじさまや、お菓子を渡してくれる子供たちも多い。ハイタッチをしてくれるご婦人たちにも元気づけられた。

後にマッサージをしてくれた地元の治療師の方から聞いたのが、京都は高校駅伝の全国大会も有名で沿道が盛り上がるのに、地元の人たちは「応援慣れ」しているらしい。

レース中、川沿いの応援に一言ずつ「ありがとうございます」と手を振って応える洗練されたランナーもいた。普段の僕ならその人に「すごいですね」と話しかける図々しさがあるのだが、余計なことをして走り切れなかったら参加費がムダになると思い、その時はあきらめた。京都マラソンの参加費は高く、1万7500円。加えて新幹線が片道1万2000円、あとは宿代2泊分と、カフェでの食事と。走りながら勘定した。走り切るモチベーションは、このケチな精神にあったと思った。

やっぱりマラソンは人の生きざまを映す、王道のスポーツかもしれない。

サポート 尾畠 翼

大和市民活動センターは「大和市新しい公共を創造する市民活動推進条例」に基づいて設置されています。

「あの手 この手」 第212号 発行日：2025年3月10日

大和市民活動センター <開館日 月～土 9:00～18:00>
<休館日 12月29日～1月3日・毎月第3月曜日>

〒242-0018 大和市深見西1-2-17

発行：大和市民活動センター 拠点やまと

TEL:046-260-2586 FAX:046-205-5788
e-mail:yamato@ar.wakwak.com
<http://www.kyodounokyoten.com/>



3月号
2025



ベテルギウス玄関
3月5日の生け花

表紙絵は「やまと国際フレンドクラブ(IFC)主催
やまと国際アートフェスタの入賞賞作品を
毎号掲載しています

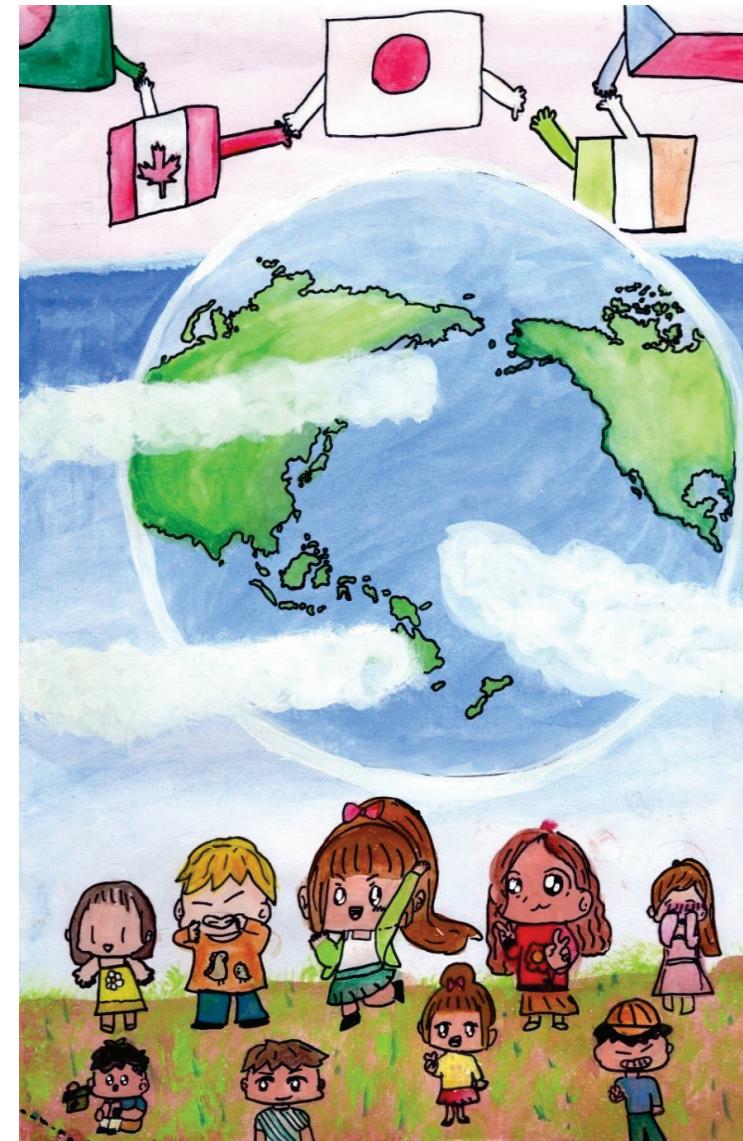
今年度(第17回)のテーマ：
守りたい、平和な世界

バラード賞受賞
バトウル ノミン さん (モンゴル)
上和田小学校5年生

作品タイトル：世界のつながり

ひとことメッセージ

肌の色がちがうからという理由で、差別をしないで、みんなが仲良く暮らしていくように願いを込めて描きました。



第111回 共育セミナー

日時 2025年4月12日(土) 14:00～16:00
場所 ベテルギウス2階 (大和市民活動センター会議室2)

「最高の幸せ、それは「平和」であること！
この幸せを ちょっと考えてみませんか

NHKが、100歳の方100人に行った、「人生で最もうれしかったことは？」のアンケート調査で、最も多かった回答は「戦争が終わって平和になったこと」でした。また、高校生の間でも、太平洋戦争当時の様子を調べながら、平和を考える活動が広がっています。

このセミナーで「平和」の大切さについて考えてみませんか？

ゲストスピーカー

大和市平和都市推進事業

実行委員会会長 永井 圭子さん

若い世代への戦争の記憶をつなげる活動に積極的に取り組まれています。大和市の平和都市事業の推進の舵取り役として、長く活躍されている。

実行委員会委員 平原 久子さん

大和市平和映画会において、学童疎開で撃沈された「対馬丸」の上映を提案し開催したこと。東日本大震災時には「ちゃんちゃんこ」100枚を縫い、寄付。平和都市推進事業に長年かかわっている。

大和市平和都市推進事業実行委員会では、大和市平和都市宣言の趣旨である「人類の永遠の平和を希求し、眞の恒久平和を実現する」ことを目指し、平和に対する意識啓発を図るために、さまざまな平和事業を展開しています。



市民活動センターの21年目の活動がスタート スタッフの想いを乗せて

大和市民活動20周年記念交流会(しゃべり場)開催!

去る2月16日(日)に、市民活動センターの1階市民交流スペースにおいて、「わたしの居場所、こども・わかものまんなか社会ってなに?」をゲストスピーカーに、「認定特定非営利活動法人NPOサポートちがさき」代表理事益永律子さん、「特定非営利活動法人アクションポート横浜」代表理事高城芳之さん、特定非営利活動法人パノラマ理事長石井正宏さんをお招きして、それぞれの活動のエッセンスをお話し頂きました。集まった45名でその体験、思いを共有する時間となりました。今号では、その日の模様を写真とスタッフのコメントで振り返るとともに、21年目も継続して事業を展開していくにあたり、「活動の拠点」として果たすべき使命を表明する場としたいと思います。



益永さんのお話を聞き、いつの時代にも子どもたちは元気で可能性を持っていることを確信しましたが、石井さんのお話では15~19歳の大事な時期に支援が届いていない。「あつてもなくてもよいものがない」「信頼貯金を溜める」とも。高城さんは、学生は『思い』がベースで『この事業を継続して欲しい』ということではなく、まずは関係性作りからと話されたが、今は作りにくいかも知れないがこれはどの時代でも同じであろう。

若者に実力を發揮してもらうために、私にできることはあるか? それは何もない。
しかし、応援をしていることは伝えたいと思った有意義な会でした。 スタッフ 櫻井美紀子



★20周年おめでとうございます。市民活動センター最高です ★おもしろそー行ってみたい(多分)
サークルのマスコットも描いていただきました ★がんばっているがたや楽しくしている絵があつてすてきだと思いました。私がすきな絵はひまわりの絵です
(20周年おめでとう!) ★20周年おめでとう♪ FMやまとに出演される団体の魅力を伝える素敵な漫画、ありがとうございます。いつも温かく、ユーモアあふれるタッチで描かれる物語を楽しみにしています! ★500回に向けて多くの方々に届きますように ★継続は力なり! 20周年ですか、スゴい ★絵が上手でいいと思います ★いろんな日にいろいろなものが書いてあり、すごいと思います!! ★えかわいいし、えうまいし、すごすぎなんだけど ★イラストが分かり易くて良い! 20周年おめでとうございます ★すごい!! ★わーお ★可愛いきれい ★すご ★これはすごい 本にしてみんなでみましょう
★すげー!! ヤバ!! ★絵うま! ★びっくりしました ★もう20周年なのがびっくりしました ★すごすごすごすごすごすご FMやまと!



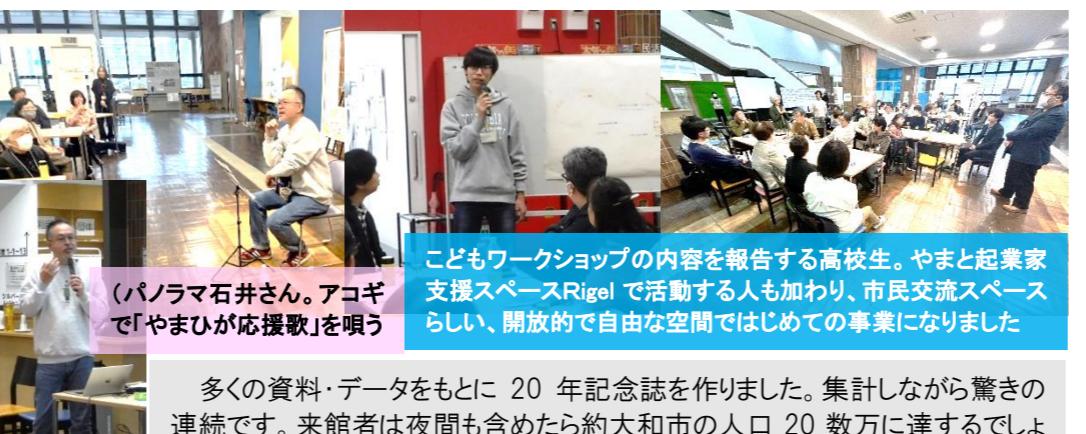
わたしの居場所、こども・わかものまんなか社会ってなに?

昨年2月に開催した共育セミナー「こども・わかもの参画 地域活動拠点に求められるもの」で、大和市民活動センターは「こども・わかものの居場所」としてどのように役割を果たしていくべきか考え、6月より月2回「市民交流カフェ」をオープンしました。

棘が刺さったから抜いてほしい、ここには夜の9時までいるんだよ、とか、うちのお兄ちゃんなんだけど、など、日常のちょっとしたできごとや悩みを話し始めています。
途中で習い事に行き、また戻ってくるなど、カフェのない時も市民交流スペースがこどもたちの居場所となっていることを実感しています。

今回の(しゃべり場)を企画するに当たり、こどもたちにも招待状を配りました。何人参加してくれるか心配でしたが、ワークショップに参加してくれたこどもたちやカフェで覚えた皿回しを披露した子がいました。詩吟を吟じた高校生もいました。こどもたちが自分で考え動き、未来を創る自分のチカラに気づくように(ちがさき・さむかわ こどもファン)、私の「やりたい」を翻訳する(アクションポート横浜)。そして、すべての人をフレームイン!できる社会を創る(パノラマ)。ゲストたちのメッセージを胸に、これからも家族や先生以外の大人として、こどもたちと関わっていきたいと考えています。

スタッフ 関根孝子



多くの資料・データをもとに20年記念誌を作りました。集計しながら驚きの連続です。来館者は夜間も含めたら約大和市的人口20数万に達するでしょうか… 会議室使用は1,500件、印刷機は自分達の業務使用も含めると10,000回の稼働です。共育セミナーは100回を超え、FMやまとは500回に近づく記録が並びます。参加者、関係者そして調整役で苦労された担当者の顔が浮かんできます。皆さんのご苦労を振り返って、講演者の名前、タイトルを見たら当時の様子が頭に浮かんでくるのでは?と長い一覧表を作って載せてみました。

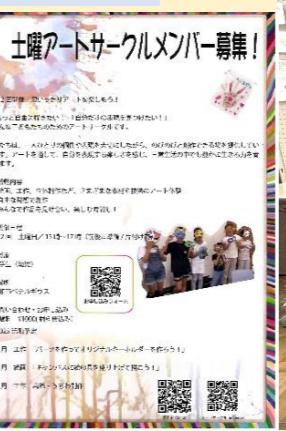
スタッフの長♪ 望月則男



やまとっこ☆みつけた～に出演団体のイラスト展に寄せられた応援メッセージ ↓

1月の展示コーナー

市民交流スペース内の「展示コーナー」では、個人・団体の活動の紹介や作品展を行うことができます。申込み方法については、大和市民活動センターまでお問い合わせください。



部活の存続危機



「いま、わたしが関心があること、こうなったらいないとおもうこと」ワークショップ。写真にはいないけど、小学校6年男子2人も参加してくれました。話題は、周囲でいじめにあっている子の話に。

2月16日は大和市民活動センター設立20周年の重みを知る一日になりました。

設立当時のメンバーや市職員の方にもお越しいただき、ご都合がつかなかったけれど記念誌にメッセージを寄稿してくださった方々、これまでにお世話になった諸先輩など、多くの方々の支えがあり、センターが20周年を迎えたことに感謝しています。センターのモットーである「共育(ともいく)」はその思想と理念はもとより、言葉としても素晴らしいものと誇りに思っていますが、「しゃべり場」ではパネリストの方々のお話と参加者の質問の応答を聞きながら「共に育つ」というフレーズが何度も浮かび、あらためてその言葉の意味を噛みしめました。それぞれ活動の内容は違っても、想いは共通していると感じる場面もあり、今後は団体同士が繋がることで新しい展開への期待が高まる思いがしました。また、今回は短大生と高校生にボランティアとして参加してもらい“小学生のしゃべり場”的お姉さん、お兄さん役、会場の設営役として参加しました。若い世代の感性に触れて、私たちの視野が広がる可能性も大いに感じています。市民活動の中間支援組織としてセンターが今後どのように支援できるか”あの手この手”で知恵を持ち寄り考えていきたいと思っています。

スタッフ 辺見 弥生



スタートから参加者のみなさんが誕生日順に並んで、カードゲームで自己紹介を行うなど、堅苦しい記念式典とは全く違って、市民活動センターらしく面白いなと思わず微笑んでしまいました。子どもたちのイジメ問題や、NPO法人パノラマの大和市東高校の生徒への朝食の提供活動など、大変興味深いお話しもありました。また、皿回しの大道芸や童謡の会のみんなと合唱するなど、大変バラエティーに富んでいて「しゃべり場」は、これまでの20年の歴史を振り返り、また新しい歩を踏み出すために、みんなの気持ちが一体となりました。

スタッフ 白井 博

土曜アートサークル(月2回 土曜午後に活動。小学生・幼稚園対象)

